

富岡市長賞 佳作

税は縁の下の力持ち

西中学校 3年 竹内 まりの

「税金ってなに？」みなさんはそう思ったことはありませんか。私も最近税金について、習い少しだけわかった気がします。税金とは、租税として、国家や地方自治体がりたてるお金のことです。あまり目には見えないけど私たちの身のまわりで多く使われ、とても役に立っていると知りました。

しかし私はよく、「どうして消費税を払わなくてはならないのだろう。」と誤ってしまいます。一回の買い物だと五円・十円とか少しのお金だけれど、それが一年二年と積み重なるといくらになるか分かりません。私は、消費税しかまだ、払っていないけれど今まで払った消費税をたすと、いくらになるのでしょうか。きっと今まで、大變な金額を払っていることだと思います。買い物のレシートの「消費税」の文字をながめながら、いつも私はそう思います。私にとって消費税とは、「余計にお金のかかるもったいないもの」でしかなかったのです。

私は病院などに行く度に「保険証、お持ちですか？」と尋ねられます。「保険証って何のためにいるの？」と家に帰って家族に聞いてみました。今までずっと不思議だったことを聞きました。「保険証を見せたら病院での患者さんの治療代の負担が少なくて済むんだよ。税金から残りのお金を負担してくれるから。」と教えてもらいました。そのことを聞いて今まで無駄だと思っていた税金が、こんなにありがたいものなのかと実感しました。誰もが病院に行ったことがあるはずだから、今まで税金にお世話になったし、これからもなるでしょう。

私たちにとって税金とは、決して悪いものではありません。目に見えないことが多い税金ですが私は、税に支えられていると思います。

税金とは、縁の下の力持ちです。そんな税金を大切にしていきたいです。

これからは、私が払う消費税も誇りを持って納めようと思います。

私の両親が私たちのために納めてくれている税金。今度は私たちが未来の子供たちのために納める番です。